

## 人の心が変わるとき

高一

四月。高校生になった私の毎日の電車通学が始まった。それほど長時間、長距離ではないものの、今までとは違う空間にいまだに胸が高鳴る。

毎日駅のホームや改札、電車内ではたくさんの人を見かける。私と同じ高校生、会社員、お年寄り、時間帯によっては小さな子がいることもある。特に、朝、夕方のラッシュでは相当な人混みだ。

朝、いつもと変わらず何人かの友達と駅の中を歩いていたとき、私の足に何度も何かをぶつけられている感覚があった。混んでいて人も多いからとあまり気に留めなかったが、その瞬間、隣にいた友達に強く手を引かれた。驚いて友達の方を見ると白杖を持った女の人が近くにいた。私の足にぶつかっていたのは白杖だったのだ。思い返せば点字ブロックの近くを歩いていたので申し訳ない気持ちになった。

こんな人の多い駅の中、一つの杖を頼りに電車に乗るのは大変だなと思いつながら何気なく歩き続

けたとき、その女の人に若い女の人が声を掛けていたのが目に入った。若い女の人は荷物を持ってあげ、なるべく人の少ない所にその女の人を誘導していた。私は白杖が当たってその人の近くにいたのにもかかわらず、声掛け、手助けはもちろん、気付くことすらままならなかったのに、若い女の人はわざわざ手助けに行っていたことに感銘を受けた。助けられていた女の人も、にこにこなんだかうれしそうでほほえましい光景が広がっていた。

その日から私は、なんとなく周りを見渡してみることにした。普段、注目して見ることはない人混みには、シルバーカーを押している人、ヘルプマークを付けている人、気付かないけれどもいろいろな人がいる。助けを求めているかは分からないが、必要であれば声をかけて手助けしたいと思った。

先日、自宅の最寄り駅で改札を通過できずに困っている人を見た。「カード残高が無いのかな。」くらいに思い遠目に見ていたが、明らかに私に助けを求めているように思った。

駅は無人のため駅員はいない。周りにも人がい

ない。不安は大きかった。しかし、この前の経験を生かせるのは今しかないと思いい声を掛けてみた。「どうしましたか。」と話し掛けてみたが、なぜか困った顔をして身振り手振りで何か伝えようとしていた。「これダメ。」と言ってきたとき、私はこの人が外国の方だったと気付いた。内心焦った。ここは無入駅であるため有人駅と繋がるインターホンはあるが使い方も難しい。それでも以前、若い女の人の行動を見たとき、感銘を受けたのは紛れもない事実だ。今度は私の番だと思い、その人と一緒にインターホンを使って駅員と話し、問題は解決できた。別れ際に、「ありがとう。」と言われたとき、私はこの上なく温かい気持ちになり、何より自分を誇らしく思えた。やったことは違っても、困っている人を助けることができたことがとても嬉しかった。あのときの若い女の人のようになれたかな、と。

普段、道に迷ったなどの何か困ったときに、係の人や店員さんに自分から聞くことはよくあるが、見知らぬ人に、相手のためと思って話し掛けたのは初めてでもドキドキした。しかし、その中でも声を掛け、手助けができたのは、あの日見た

女の人の行動が私の心を変えてくれたからだ。

最近では、様々な人が生活しやすいようにと音声表示が出たり、見やすい掲示板が作られたりと多くの工夫がなされているが、人の力に勝るものはない。よしあしはあるが人を助け、人の心を動かせるのは人だと私は思う。様々に困っている人たちが過ごしやすいようにしても、その人を取り巻く人たちが心を開き、助け合いたいと心のバリアを取り除かなければ、まったく意味のないものになってしまわないか。

あの日の出来事をきっかけに視覚に障害のある人について少し調べてみた。困ったときは、白杖を高く掲げるといふサインがあるようだが、このことを知っている人は少ないだろう。サインが周知されることはもちろん重要だが、もし、私がこの立場なら、困ったからといって人前でサインをすることはなかなかできないと思う。そう考えたとき、困っていないだろうかと相手を気遣う気持ち、助けになるのではないか。

できないことがあるのはみんな同じ。同時に、その人にしかできないこともある。そして、全ての人法の下、自分らしく生きる権利をもっている

る。そのためにお互い助け合いながら過ごしやすい環境をつくるべきだ。

一人が変わると周りも変わり、さらにその周りも変わる。思いやりの連鎖。私はその初めの一人としてみんなの心を変え、心の支えになる存在になりたい。